



# 心臓神経症 にともなう 諸症状と漢方

監修

北村 順 先生

神戸海星病院内科 部門長、島根大学医学部 臨床教授

# 心臓神経症にともなう 諸症状と漢方

## 心臓神経症

心臓神経症とは、動悸や胸痛など心血管疾患に類似した症状がありながら、あらゆる画像診断や血液検査所見に際立つ異常が認められず、特定の身体疾患と診断できないものを指します。

- ✓ 胸痛を主訴に受診する救急患者の20%前後に認められる
- ✓ 循環器専門医を受診する患者の30~60%が心臓神経症やうつ病といわれる
- ✓ 女性が男性の2倍
- ✓ 不安を基調とする精神障害が前面に出ている

(諸岡俊文, 野出孝一. 医学と薬学. 2016, 73(11), p.1387-1391)



心臓神経症と考えられる動悸、胸痛であっても、症状が強い場合、対応に苦慮することがあります。薬物療法としては、SSRI(選択的セロトニン取り込み阻害薬)、ベンゾジアゼピン系抗不安薬などが用いられることがありますが、患者さんによっては副作用を気にされるかもしれません。そのようなとき、漢方薬という選択肢を持っていると、患者さんの期待に応えることができる可能性があります。

## 漢方医学でのアプローチ

心臓神経症の諸症状に対する漢方治療を考える場合、動悸・胸痛(胸部圧迫感、胸のつかえ)などの主症状と、随伴する症状や患者さんの体力などを参考にして処方選択します。

### 心臓神経症の諸症状に対する漢方治療

症状	処方	使い分け	甘草の量
動悸	TJ-64 炙甘草湯 しやかんそうとう	疲れやすい、息切れ	3.0g
	TJ-23 当帰芍薬散 とうきしゃくやくさん	生理周期に伴う貧血症状	なし
動悸(心悸亢進)を伴う 神経(衰弱)症	TJ-11 柴胡桂枝乾姜湯 さいこけいしかんきょうとう	体力低下	2.0g
	TJ-12 柴胡加竜骨牡蛎湯 さいこかりゅうこつほれいとう	比較的体力あり	なし
	TJ-16 半夏厚朴湯 はんげこうぼくとう	咽喉、食道部に異物感	なし

#### 注意する生薬

甘草:偽アルドステロン症(血圧上昇、下腿浮腫、低カリウム血症にともなう脱力感など)



### 11 ツムラ柴胡桂枝乾姜湯エキス顆粒(医療用)

〈証に関わる情報〉使用目標=証  
比較的体力の低下した人で、顔色がすくれず、疲労倦怠感があり、動悸、息切れ、不眠などの精神神経症状を伴う場合に用いる。  
1)心窩部より季肋下部にかけての軽度の苦満感(胸脇苦満)を訴える場合。  
2)悪寒、微熱、盗汗、口渇などを伴う場合。  
\*胸脇苦満:心窩部より季肋部にかけて苦満感を訴え、抵抗・圧痛の認められる症状をいう。

効能又は効果 体力が弱く、冷え症、貧血気味で、動悸、息切れがあり、神経過敏のものの次の諸症: 更年期障害、血の道症、神経症、不眠症 (2007年5月改訂)

使用上の注意(抜粋) 1.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。2.相互作用(併用に注意すること)【薬剤名等】(1)カンゾウ含有製剤(2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 3.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)間質性肺炎:発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。2)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。3)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。4)肝機能障害、黄疸:AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTP等の著しい上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。4.高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

	頻度不明
過敏症 <sup>注1)</sup>	発疹、発赤、痒痒等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

### 12 ツムラ柴胡加竜骨牡蛎湯エキス顆粒(医療用)

〈証に関わる情報〉使用目標=証  
比較的体力のある人で、精神不安、不眠、いらいらなどの精神神経症状があり、胸脇苦満\*のある場合。  
1)頭痛、頭重、肩こりなどを伴う場合。  
2)臍傍に腹部大動脈の拍動の亢進を認める場合。  
\*胸脇苦満:心窩部より季肋部にかけて苦満感を訴え、抵抗・圧痛の認められる症状をいう。

効能又は効果 比較的体力があり、心悸亢進、不眠、いらだち等の精神症状のあるものの次の諸症: 高血圧症、動脈硬化症、慢性腎臓病、神経衰弱症、神経性心悸亢進症、てんかん、ヒステリー、小児夜啼症、陰萎 (2009年7月改訂)

使用上の注意(抜粋) 1.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。2.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)間質性肺炎:発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。2)肝機能障害、黄疸:AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。3.高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

	頻度不明
過敏症 <sup>注1)</sup>	発疹、発赤、痒痒、尋麻疹等
消化器	胃部不快感等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

### 16 ツムラ半夏厚朴湯エキス顆粒(医療用)

〈証に関わる情報〉使用目標=証  
体力中等度以下の人で、顔色がすくれず、神経症的傾向があり、咽喉が塞がる感じ(いわゆるヒステリー球)を訴える場合に用いる。  
1)気分がふさぎ、不眠、動悸、精神不安などを訴える場合。  
2)呼吸困難、咳嗽、胸痛などを伴う場合。  
3)心窩部の振水音を伴う場合。

効能又は効果 気分がふさいで、咽喉、食道部に異物感があり、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴う次の諸症: 不安神経症、神経性胃炎、つわり、せき、しわがれ声、神経性食道狭窄症、不眠症 (2019年5月改訂)

使用上の注意(抜粋) 1.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。2.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。3.高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

	頻度不明
過敏症 <sup>注1)</sup>	発疹、発赤、痒痒等
肝臓	肝機能異常(AST、ALT等の上昇)

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

### 23 ツムラ当归芍薬散エキス顆粒(医療用)

〈証に関わる情報〉使用目標=証  
比較的体力の低下した成人女子に用いられることが多く、一般に冷え症で貧血傾向があり、性周期に伴って軽度の浮腫、腹痛などを呈する場合に用いる。  
1)全身倦怠感、四肢冷感、頭痛、めまい、耳鳴、肩こり、心悸亢進などの症状を訴える場合。  
2)無月経、過多月経、月経困難など、月経異常のある婦人。

効能又は効果 筋肉が一体に軟弱で疲労しやすく、腰脚の冷えやすいものの次の諸症: 貧血、倦怠感、更年期障害(頭重、頭痛、めまい、肩こり等)、月経不順、月経困難、不妊症、動悸、慢性腎炎、妊娠中の諸病(浮腫、習慣性流産、痔、腹痛)、脚気、半身不随、心臓弁膜症 (2014年10月改訂)

使用上の注意(抜粋) 1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等があらわれることがある。] (2)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。3.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。4.高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

	頻度不明
過敏症 <sup>注1)</sup>	発疹、痒痒等
肝臓	肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)等の上昇)
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

### 64 ツムラ炙甘草湯エキス顆粒(医療用)

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】  
1. アルドステロン症の患者  
2. ミオパチーのある患者  
3. 低カリウム血症のある患者  
[1~3:これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。]

〈証に関わる情報〉使用目標=証  
比較的体力の低下した人で、動悸、息切れなどを訴える場合に用いる。  
1)皮膚の乾燥、易疲労感、手足の煩熱などを伴う場合。

効能又は効果 体力がおとろえて、疲れやすいものの動悸、息切れ (2007年5月改訂)

使用上の注意(抜粋) 1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等があらわれることがある。] (2)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。3.相互作用(併用に注意すること)【薬剤名等】(1)カンゾウ含有製剤(2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤(3)ループ系利尿剤 フロセミド エタクリン酸(4)チアジド系利尿剤 トリクロルメチアジド 4.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。5.高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

	頻度不明
過敏症 <sup>注1)</sup>	発疹、発赤、痒痒、尋麻疹等
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

用法及び用量 通常、成人1日7.5g(ツムラ炙甘草湯エキス顆粒(医療用)は1日9.0g)を2~3回に分け、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

\*その他の使用上の注意、組成・性状、包装、承認番号、薬価基準収載年月、販売開始年月は製品添付文書をご覧ください。